

「令和4年度 大学学長と区長との懇談会」の実施報告について

1 主旨

「世田谷区総合戦略」の基本目標にある「地域人材と社会資源を活用した活力ある地域社会の構築」の実現に向け、大学の持つ専門性や地域資源を活かしながら、地域社会の発展に向けた大学と区との連携・協働を推進することを目的に、「令和4年度 大学学長と区長との懇談会」を開催したので報告する。

2 概要

(1) 日時

令和4年11月9日（水） 14時～16時

(2) 会場

駒澤大学 駒沢キャンパス 種月館 種月ホール（世田谷区駒沢1-23-1）

(3) 出席者

大学側：駒澤大学、国士舘大学、産業能率大学、昭和女子大学、成城大学、多摩美術大学、テンプル大学ジャパンキャンパス、東京医療保健大学、東京都市大学、東京農業大学、日本大学文理学部、日本大学商学部、日本体育大学、明治大学
計14大学

※日本女子体育大学、日本大学危機管理学部、日本大学スポーツ科学部は欠席

区側：区長、副区長、教育長、生活文化政策部長

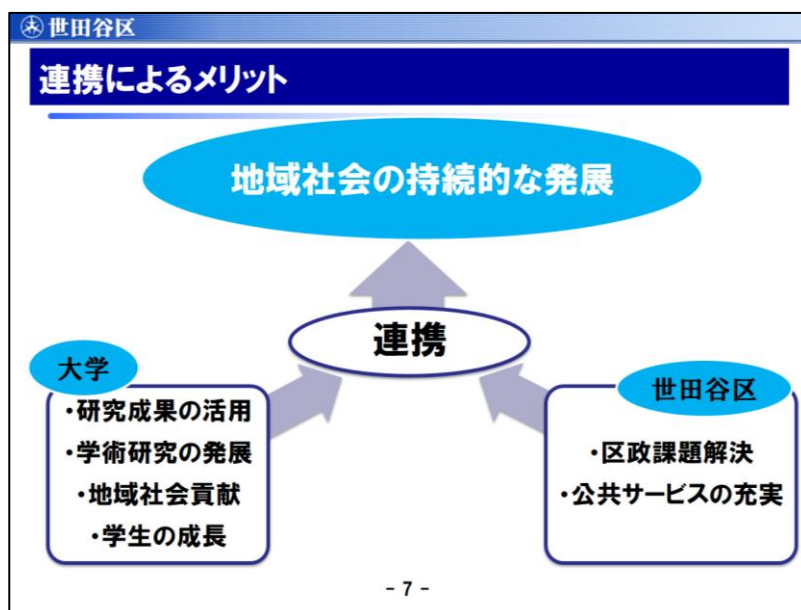
(4) 懇談会

テーマ：「世田谷区と大学との連携について」

① 世田谷区と大学との連携について

1) 世田谷区が取り組む区と大学の連携の目的

区が抱える様々な課題の解決につなげ公共サービスの充実を図る。また、大学は研究成果の活用や学術研究の場としての活用、また社会貢献など学生の成長につなげ、連携により地域社会の持続的な発展を目指す。



2) これまで進めてきた区と大学の連携した取組み事例

事例① 若者の投票率向上プロジェクト（多摩美術大学×世田谷区）

事例② 教育総合センターSTEAM教育講座（国士舘大学・駒澤大学・昭和女子大学
・成城大学・東京都市大学・東京農業大学×世田谷区）

事例③ 川場村中学生ENGLISHキャンプ（テンプル大学×世田谷区）

④ 世田谷区

連携事例①
～若者の投票率向上プロジェクト～（多摩美術大学×世田谷区）

・世田谷区議会議員・世田谷区長選挙は最も区民に身近な選挙であるが、他の選挙と比べて最も低い投票率となっており、若年層、特に20代の投票率は20%程度に留まっているため、若者の投票率を向上させたい。

・投票率アップに向け、若年層の視点に立った「視覚的な啓発」について造形芸術全般において専門的知見を有する多摩美術大学に協力を依頼。

・統合デザイン学科の授業内で学生による課題整理と啓発事業案を検討。令和5年区議・区長選の啓発事業実施に向けた準備を進めている。

・啓発効果の検証等、中長期的な連携実施を目指している。

■授業の様子



■アイデアプレゼン



- 8 -

② 学長と区長との懇談

各大学の専門性や資源を活用した区と大学との連携の可能性について大学全体としての大きな視点から学長との意見交換を行った。主な意見は下記のとおり。

- 大学は、大学研究の推進と知の地域還元を目指していくべきである。あわせて、地域参加することで学生の成長の場になってほしい。
- 単発で終わらせない中長期的な連携が必要である。
- 日本の大学生は18歳以上、大学院を入れても30歳以下となる。年齢の多様性がなく、日本の大学の弱さの一つと考える。それを補うためにも社会との連携は必要。
- 大学を超えた学生主体の交流や問題解決のチームを作れるような場があることが望ましい。
- 国際的な能力として、リーダーシップ、アントレプレナーシップ（起業家精神。新しい事業の創造意欲、能力、行動。）クリエイティビティ（創造性）が重要であり、それらを高める教育を提供する必要がある。
- 区の課題、大学の研究双方の見える化により、ミスマッチも少ない新たな連携が生まれるのではないかと

(5) 令和5年度に向けて

学長と区長との意見交換を受け、区の課題や大学の研究、連携ニーズなどを可視化する手法を模索し、より連携が捗る環境整備を検討していく。

3 その他

当懇談会の実施結果については、区ホームページに掲載する。